製鐵所事件を議會に持出す

勞友會、友愛會、鑛夫協會の首腦者上京す

八幡製鐵所事件に關し勞友、友愛兩會及鑛夫協會の首腦者は最早此上は中央政府及帝國議會を動かすより外途なしとし友愛會よりは九州出張所主任木村綻吉、藤田俊次郎、勞友會よりは淺原會長令兒・鑛夫協會より一名上京委員として十日夜八幡出發東上の途に就きたるが十一日夜車中に一行を訪へば木村綻吉氏は語る

製鐵所二萬の職工は殆ど工場に還入つてゐても何れも日向ぼつこをして怠業してゐる丈けで熔鑛爐は廢物にこそなつてゐないが能力を發揮してはゐない。全體の

仕事の能率

は先づ八分の一で當分此の狀態が續くでせう。白仁長官もすつかり悄氣てゐます。官憲の壓迫は依然甚しく職工が一室で騒いでゐると直ぐ憲兵が彈を裝塡して押寄せて來るといふ始末で仕事の指圖も職工よりと巡査がしてゐます勞友會の幹部は一時殆ど全部檢束されて途方に呉れてゐた事もあつたが友愛會其他で演說會を開いた結果漸く七名を除き五十名許りは七日に釋放されました。併し製鐵所の回答は全く要領を得ませんだから我々は此上は農商務大臣及び警保局長に會つて詰問し尙代議士を歷訪して

議會を動し

又一方演說會を開いて世間に眞相を發表し輿論に問ふ考へです、我々は飽迄大義名分に依り大同團結して正義の爲に戰ふ決心です、尙八幡事件に關聯して三井あたりでは勞働團體に對し壓迫を加へ勞働組合に入れば直ぐに馘首すると脅してゐるので三池炭坑などでは近く一紛爭あらねば濟みますまい。

太田圭助氏談

印度の

感情 問題の埒に踏み入り

下院本會議緊

—總豫算案愈本日決